CHOFU KOSAN

石油給湯機付ふろがま

取扱説明書

CBK-381GF
CBK-381GFX

このたびは本品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
お取扱いの前にせひこの取扱説明書を読んで正しいご使用方法でいつまでもご愛用くださいますようお願い申しあげます。

1．まちがった使用をされますと、機能をじゅうぶんに発揮しなかったり、故障や思わぬ事故・危険を招くことがあります。
2．保証書は必ず販売店名、型式、製造番号、設置日などの記入を確かめて、この取扱説明書と共に大切に保管してください。

長府工産株式会社

目　　次

1　特に注意していただきたいこと……1
2　各部の名称　……4
3　使用前の準備　……6
　1 燃　料　……6
　2 給　油　……7
　3 運転開始前の準備と確認……8
4　使用方法　……10
　1 運転方法　……10
　2 温度調節の方法……10
　3 おふろの使用方法　……11
　4 運転停止　……14
　5 ワンタッチタイマーの使い方……14
　6 凍結予防　……15
　7 使用上の注意　……16
　8 長期間使用しないとき……16
5　安全装置　……17
6　その他の装置　……17
7　日常の点検、手入れ……18
8　定期点検　……19
9　故障・異常の見分け方と処置方法……20
10　部品交換のしかた……22
11　仕　様……23
12　アフターサービス……24
13　据付け……25

1　特に注意していただきたいこと

●ここに示した事項は　⚠警告　⚠注意　に区分しています。

⚠警告　：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重症を負う可能性、 または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意　：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●「 ⚠ 注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

●マークについては次のような意味があります。

……「禁止していること」を表すマークです。

……「必ず行なうこと」を表すマークです。

……「注意すべきこと」を表すマークです。

⚠警告（WARNING）

ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

⚠注意（CAUTION）

1．高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、排気筒に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

2．高温注意

入浴するときや、シャワーを使用する場合、手で湯の温度を確かめてから使用してください。やけどのおそれがあります。
循環口のまわりは高温になるので注意してください。
やけどのおそれがあります。

⚠注意（CAUTION）

3．可燃物禁止

機器の上や周囲に燃えやすいものを置かないでください。
火災のおそれがあります。
特に、機器周辺にガソリン・ベンジン・スプレー缶などの
引火性危険物は置かないでください。

4．囲い禁止

機器や排気口を波板などで囲わないでください。
不完全燃焼や火災のおそれがあります。

5．分解修理・改造の禁止

故障や破損したときは、使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

6．異常時使用禁止

万一異常を感じたときは使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

7．電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物を乗せたりしないで
ください。
また、電源プラグを抜くときはコードを持って引き抜かな
いでください。
火災や感電の原因になります。

8．電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでくだ
さい。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないで
ください。火災の原因になります。
ぬれた手でプラグの抜き差しをしないでください。感電の
原因になります。

⚠注意（CAUTION）

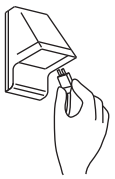
9．長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグを抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

10. 電源プラグのお手入れをする

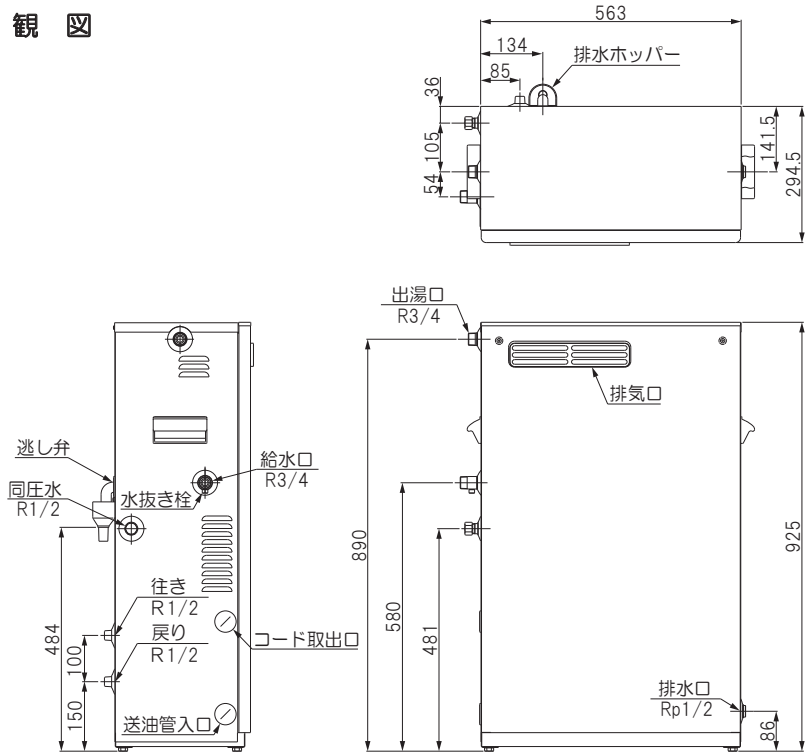
ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

11. 屋外で使用するコンセントは必ず防水コンセントを使用してください。漏電などにより、機器が故障するおそれがあります。

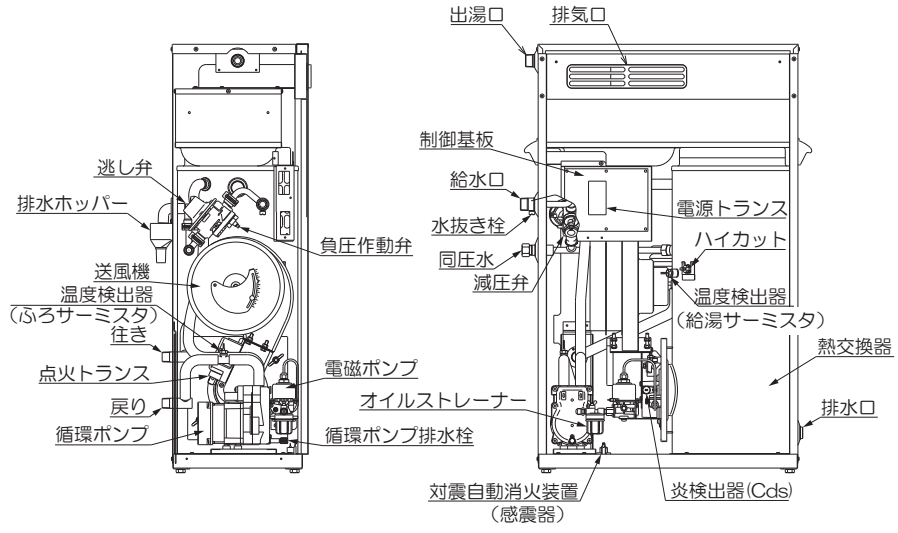


2 各部の名称

●外　観　図

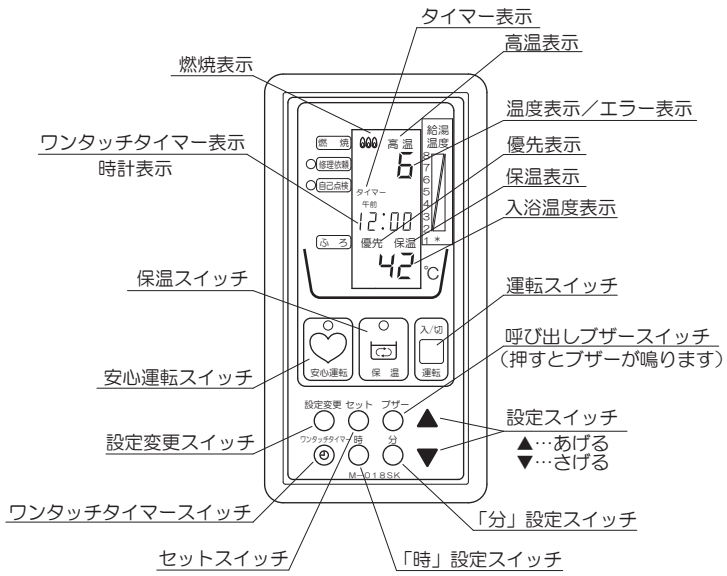


●構　造　図

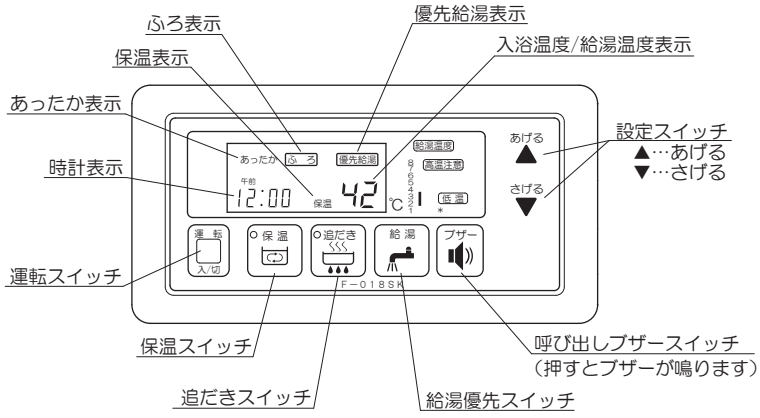


■操　作　部

●メインリモコン



●ふろリモコン



3 使用前の準備

1 燃　料

燃料は必ず灯油（ＪＩＳ１号）をお使いください。

⚠警告	
ガソリン厳禁	ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災のおそれがあります。

⚠注意	
	変質灯油や不純灯油は絶対に使用しないでください。異常燃焼や故障の原因になります。

■変質灯油とは

●古い灯油

●日光の当る場所、高温の場所で長時間保管した灯油
（特に乳白色のポリ容器や容器のふたをあけて保管したものは変質しやすい）
極度に変質したものは黄色味がかったり、酸っぱい臭いがします。

■不純灯油とは

●水や灯油以外の油が混入したもの → 故障の原因になります。
（天ぷら油、機械油）

●ガソリン、シンナーが混入したもの → 火災の原因になります。

●助燃剤、水抜き剤などの添加物が混入したもの → 故障の原因になります。

●ドラム缶のさびなどが混入したもの → 燃料フィルターやくみ上げポンプのフィルターがつまります。

2 給　油

1．給油の際の注意

給油の際に、水・ゴミなどを入れないよう特に注意してください。水・ゴミなどは燃焼不良や、電磁ポンプの寿命低下などの原因となります。

（1）油タンクの給油口ふたをはずし、灯油を市販の給油ポンプで湯量計を見ながら給油してください。

（2）給油の際は、給油口のフィルターを取去らないでください。

（3）給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。

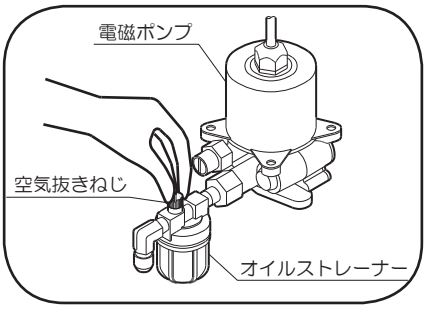
（4）給油口ふたは、必ず元通りに閉めてください。

2．燃料切れの注意

油タンクの油量を時々点検し、燃料切れになる前に必ず給油してください。据付けて初めて使用するときや、油タンクを空にし給油後初めて使用するときは、送油経路内に空気が入って点火できないことがあります。この場合は、次の要領で送油経路内の空気を抜いてください。

3．送油経路の空気抜き方法

据付けて初めて使用するときは、送油経路内の空気抜きを行なってください。油タンクの送油バルブを開き、オイルストレーナーの空気抜きねじをゆるめて、灯油が連続して出てきたら、ねじをしめてください。このときこぼれた灯油はただちにふき取ってください。



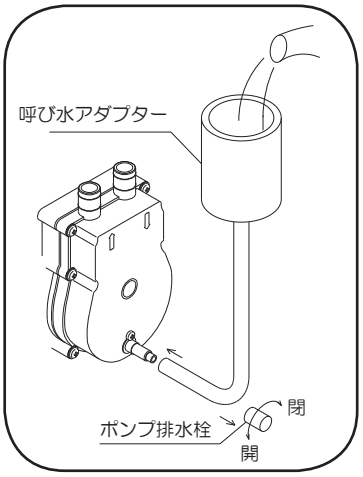
（1）空気抜きはじゅうぶんに行なってください。空気抜きがふじゅうぶんですと、点火しなかったり、燃焼中に消火することがあります。

（2）もし点火しなかった場合やエラー表示「Ｅ－０２」が出る場合は、運転スイッチを入れなおしてください。

（3）油タンク（送油経路）は空にしないように注意してください。

3　運転開始前の準備と確認

1．循環ポンプへの給水



機器を設置後初めてふろ運転をするときと、循環ポンプの掃除をしたあとや、ポンプ排水栓から水抜きをしたあとでふろ運転をするときは、循環ポンプに必ず給水をしてください。

(1) 循環ポンプへの給水は、浴槽に水を入れる前に行なってください。

(2) ポンプ排水栓を左に回してはずしてください。

(3) 附属品の呼び水アダプターのチューブを排水口に接続してから、図のようにやかんなどで注水してください。(注水量は約 500cc)

(4) 注水が終わりましたら呼び水アダプターのチューブを取りはずし、ポンプ排水栓を閉めてください。

注意

- **給水しないでふろ運転をすると、ふろが沸かないばかりでなく、循環ポンプの故障の原因になります。**
- **循環ポンプに給水し、ふろ運転すると、最初は循環するまでに多少時間がかかることがあります。**

2．機器への給水及び水漏れの確認

(1) 運転スイッチを入れる前に、給水元栓が開いていることを確認し、給湯栓を開いて水が出ることを確かめてください。水が出ないときは、凍結していないか、排水栓が開いていないかなどを調べ、給湯栓から水が出るように処置してください。

(2) 配管経路及び接続部などに水漏れはないか確認してください。

(3) おふろを沸かす前に、浴槽の水位が上部循環口から 10cm 以上あることを確認してください。

3．送油経路からの油漏れの確認

油タンクに灯油がじゅうぶん入っており、送油経路に油漏れがないか確認してください。

4．電気回路の確認

電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていることを確認してください。

5．電源周波数の確認

（1）機器は 50Hz 用と 60Hz 用の区別をして出荷しております。現地の周波数と合っているかどうか確認してください。

（2）電源周波数について詳しいことは、販売店または電力会社にお問合せください。

6．機器周辺の危険物などに関する注意

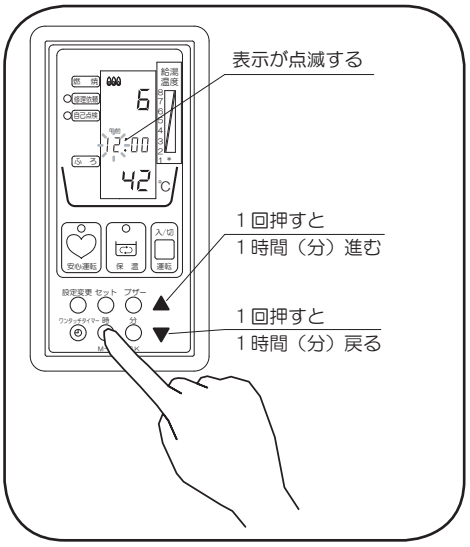
機器の周辺にガソリン、シンナーなどの危険物や、紙などの可燃物が置かれていないことを確認してください。

7．現在時刻（時計）の合わせ方

取付けて初めて使用するとき、または停電などで長時間電源の入らない状態が続いたとき、現在時刻がリセットされます。このようなときは現在時刻の設定を行なってください。

（1）時スイッチを２回続けて押すか、２秒以上押し続けてください。時設定表示が点滅します。

（2）設定スイッチ▲▼で現在時刻に合わせてください。



▲スイッチを押す毎に１時間ずつ進みます。

▼スイッチを押す毎に１時間ずつ戻ります。

現在時刻に合わせた後、セットスイッチを押すと確定となり、表示の点滅が、分設定に移動します。

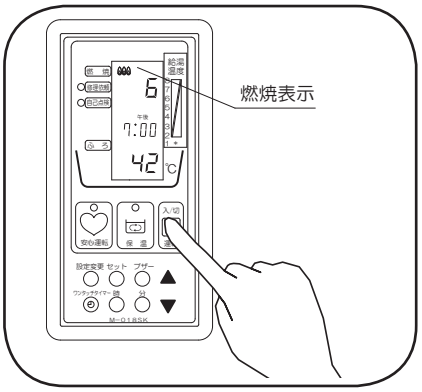
（3）次に分設定を行ないます。（2）と同じように減座右時刻に合わせて、確定してください。表示の点滅が点灯に変わり設定が終了します。

ちょっと一言　セットスイッチを押さずに７秒以上放置しますと、自動的に確定となります。

4 使 用 方 法

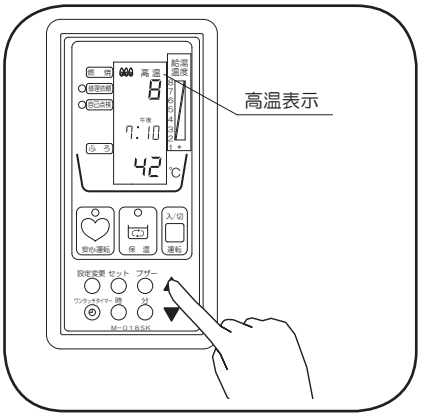
1 運転方法

リモコンの運転スイッチを押してください。温度設定表示が点灯します。数秒後にバーナーが燃焼を始め、燃焼表示が点灯します。
設置して初めてお使いになる場合、給湯温度は、「６」に設定してあります。
メインリモコン、ふろリモコンのどちらからでも運転することができます。



2 温度調節の方法

設定スイッチ　　で給湯温度を設定します。
設定範囲は１～８までです。
７または８に設定したときは、高温表示が点灯します。



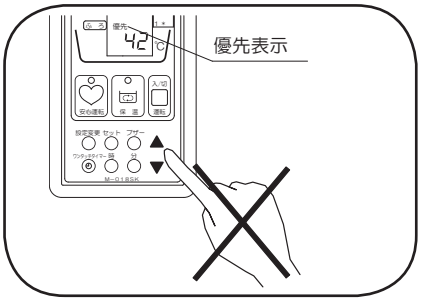
■給湯量と給湯温度のめやす

季 節	給 水 温 度	給 湯 温 度	給 湯 量
夏	25℃	50℃（25℃上昇）	1520 L/h
春・秋	15℃	50℃（35℃上昇）	1085 L/h
冬	5℃	50℃（45℃上昇）	844 L/h

（表は計算上の値です）

注意

- **シャワーをお使いになるときは、混合水栓で適温にして必ず手で湯の温度を確認してください。やけどのおそれがあります。**
- **ふろの追いだき運転中はまたは保温運転中は、給湯温度の設定が自動的に 「８」になっていますので、給湯の際はじゅうぶん注意してください。やけどのおそれがあります。**
- **優先表示が点灯中は、給湯温度の変更ができませんのでご注意ください。**



3 おふろの使用方法

1．おふろの使用前の注意

設置して初めてお使いになる場合、入浴温度は42℃に設定してあります。

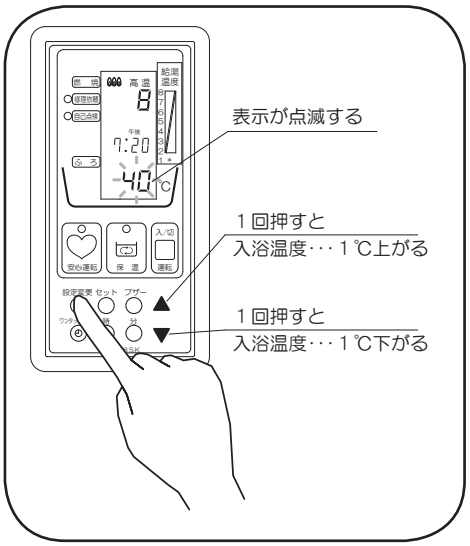
2．入浴温度の設定方法

■メインリモコンで設定する場合

(1) 設定変更スイッチを２回続けて押すか、２秒以上押し続けてください。入浴温度が点滅します。

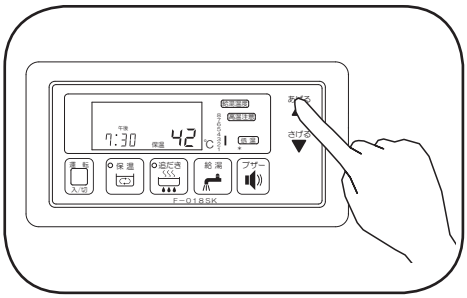
(2) 設定スイッチ▲▼で希望の入浴温度に合わせてください。

(3) セットスイッチを押すと確定となり、表示の点滅が点灯に変わり、設定が終了します。



■ふろリモコンで設定する場合

設定スイッチ▲▼で希望の入浴温度に合わせてください。



ちょっと一言

- セットスイッチを押さずに７秒以上放置しますと、自動的に確定となります。
- メインリモコンでの入浴温度の設定範囲は 36 ～ 48℃です。
- ふろリモコンでの入浴温度の設定範囲は、メインリモコンの設定範囲の±２度です。

3．追いだきスイッチの使い方

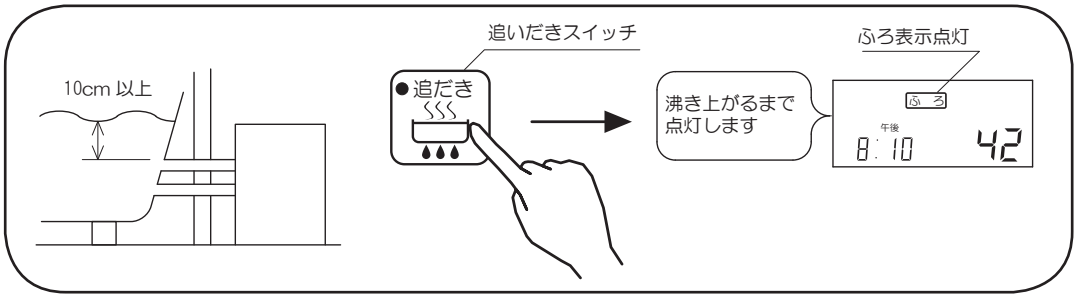
残り湯から沸かす場合や、保温運転中に少しあったかめにしたいときに使います。

（1）残り湯から沸き上げる場合

①浴槽の水位が上部循環口から約 10cm 異常あることを確認してください。

②設定スイッチ▲▼で希望の入浴温度に設定してください。

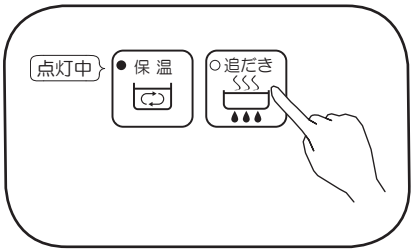
③追いだきスイッチを押します。 ふろ 表示が点灯し、メインリモコンの優先表示が点灯します。設定入浴温度まで沸き上がりますと、 ふろ 表示とメインリモコンの優先表示が消灯し、追いだき運転を停止します。



（2）保温運転中に少しあったかめにしたい場合

①追いだきスイッチを押すと、あったか表示及び ふろ 表示が点灯します。現在の入浴温度より約２℃高くなるまで沸き上げを行ないます。

②途中で沸き上げを止めたいときは、追いだきスイッチを切ってください。



注意

・保温運転中は 20 分間隔で循環ポンプが作動し、おふろの温度が冷めている場合は自動的におふろの追いだきを行ないます。その際、最初に熱いお湯が循環口から出ますので入浴中は注意してください。

・ふろリモコンでの入浴温度の設定範囲は、メインリモコンの設定温度の±２℃です。

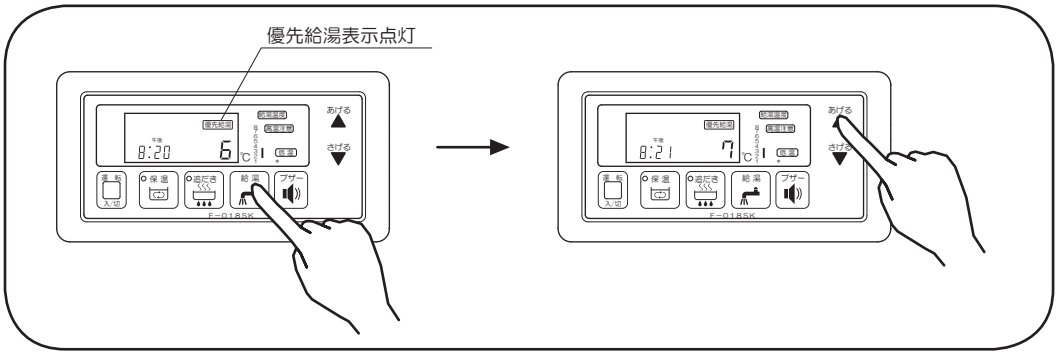
4．給湯スイッチの使い方

残ふろリモコンで給湯温度を変更したいときに使います。

（1）給湯スイッチを押してください。ふろリモコンの 優先給湯 表示とメインリモコンの優先表示が点灯し、入浴温度表示が給湯温度表示に変わります。

（2）浴設定スイッチ▲▼で希望の給湯温度に合わせてください。

（3）ご使用後は、再度給湯スイッチを押してください。ふろリモコンの 優先給湯 表示とメインリモコンの優先表示が消灯し、給湯温度表示が入浴温度表示に戻ります。



ちょっと一言

- ふろ 表示中、給湯スイッチを押すとブザーが鳴り、設定変更ができません。
- 優先給湯 表示が点灯中は、保温運転が一時停止しメインリモコンでの給湯温度は変更できません。 優先給湯 表示が消灯すると、保温運転が再開されメインリモコンでの給湯温度が変更できるようになります。

5．保温スイッチの使い方

おふろの保温をするときに使います。

（1）保温スイッチを押してください。保温表示が点灯し6時間保温します。おふろの温度が冷めている場合は、自動的に入浴温度まで沸かし上げます。

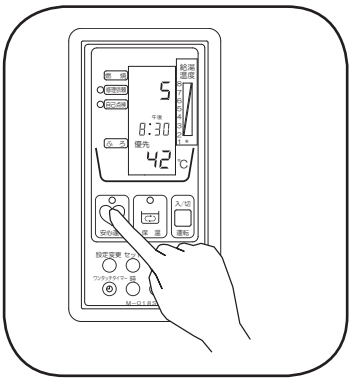
（2）保温運転を停止したい場合は、もう一度保温スイッチを押してください。

6．安心運転スイッチの使い方

安心運転はリモコンで各設定値の変更をできないようにすることで、誤操作による事故を未然に防ぎ、お年寄り、体の不自由な形、お子様が安心して使用できるようにしたものです。

（1）安心運転スイッチを押してください。リモコンで給湯温度、入浴温度の各設定値の変更ができなくなります。

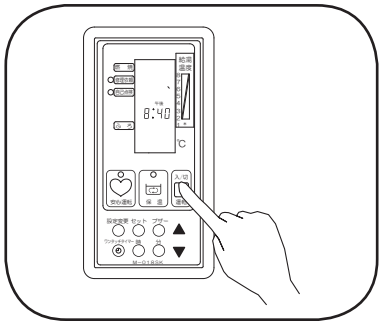
（2）再度安心運転スイッチを押すと、安心運転が解除され、各設定値の変更ができるようになります。



ちょっと一言

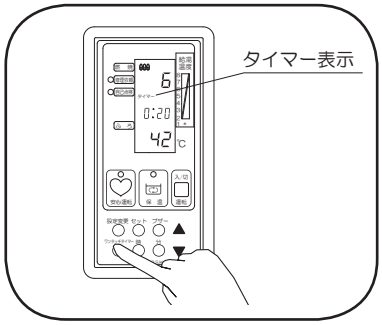
安心運転中は、メインリモコンでは設定スイッチ▲▼、設定変更スイッチ、ふろリモコンでは給湯スイッチを押しても変更できません。

4 運転停止



リモコンの運転スイッチを押してください。温度設定表示が消灯し、運転を停止します。このときリモコン表示は、時計表示のみとなります。
メインリモコン、ふろリモコンのどちらからでも停止することができます。

5 ワンタッチタイマーの使い方



この機器に設定時間になるとメインリモコンのブザーでお知らせするワンタッチタイマー機能があります。浴槽へのお湯はり時間をセットしてお使いいただくと給湯栓の閉め忘れ防止に役立ちます。

(1) ワンタッチタイマースイッチを２回続けて押すか２秒以上押し続けてください。現在時刻表示が「0:00」に切り替わり点滅します。

(2) 設定スイッチ▲▼で何分後にブザーを鳴らすかをきめてください。

▲ スイッチを１回押す毎に１分ずつ進みます。

▼ スイッチを１回押す毎に１分ずつ進みます。

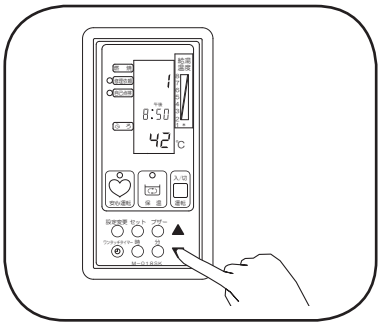
(3) セットスイッチを押すと確定となり、 タイマー　表示が点灯しワンタッチタイマーが作動します。（セットスイッチを押さずにさのまま７秒以上放置しますと確定となり、ワンタッチタイマーが作動します）

(2)「0:00」になりますとブザーでお知らせします。

(3) 解除したい場合はワンタッチタイマースイッチをもう一度押します。

6 凍結予防

凍結のおそれがあるときは、下記のいずれかの方法で凍結予防を行なってください。



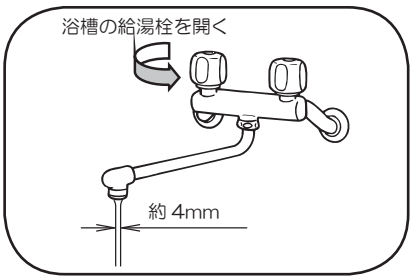
1．凍結予防ヒーターによる方法

メインリモコンの運転スイッチを押して給湯温度設定を「1」にしてください。

お願い
- **電源プラグは絶対に抜かないようにしてください。**
- **配管内及びふろ配管内の凍結予防はできませんので、凍結しないよう断熱材でじゅうぶん保温してください。**
- **配管内の水が凍結するおそれのある場合は、3．水抜きによる方法を行なってください。**

2．通水による方法（断水時には効果がありません）

運転を停止して送油バルブを閉めてください。給湯栓を開いて、浴槽に少量の水（1 分間に 400cc 程度、ただし特に寒い日には多めに）を流し放しにしておいてください。たまった水は雑用水としてご利用ください。

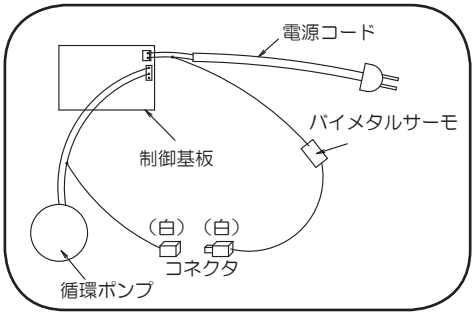


3．水抜きによる方法

（1）運転を停止して電源プラグをコンセントから抜いてください。
（2）送油バルブを閉めてください。
（3）給水元栓を閉めてください。
（4）すべての給湯栓を開けてください。
（5）循環ポンプの排水栓をはずして、水を抜いてください。
（6）給水口の水抜き栓をあけ、逃し弁を開いてください。
（7）減圧弁の負圧作動弁を押し込んで減圧弁の水を抜いてください。

4．循環ポンプ凍結予防運転による方法

ふろ配管内の水が凍結するおそれのある地域では、右図に示すコネクタを差し込んでください。外気温が３℃以下になると循環ポンプが作動し、浴槽内の水を循環させてふろ配管内の水の凍結を予防します。



注意

- **浴槽に循環口の上まで水をためてください。浴槽に水がないと循環ポンプが破損します。**
- **電源プラグは絶対に抜かないでください。**
- **給水および出湯配管内の水の凍結予防はできませんので、凍結しないように断熱材でじゅうぶん保温してください。**

7　使用上の注意

1．排気口は高温です。やけどに注意してください。
2．缶体内や配管内にたまっていた水は飲用または調理に用いないでください。使用水の水質、配管材料の劣化、水あかなどにより水質が変わることがあります。
3．浴槽の循環口はタオルなどでふさがないでください。
4．硫黄、酸、アルカリを含んだ入浴剤や洗剤は、熱交換器が腐食する原因となりますので使用しないでください。
5．山岳地帯などの気圧の低い高地（標高 1000m 以上）で使用する場合、機器内部の調節が必要です。販売店にご相談ください。
6．機器点火時にテレビ・ラジオなどにノイズ（雑音）が入ることがありますが、点火放電によるもので異常ではありません。テレビ・ラジオなどは機器から 3m 以上離し、コンセントは別回路となるようにしてください。ノイズ（雑音）を減少させることができます。

8　長期間使用しないとき

長期間運転を休止する場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、熱交換器、循環ポンプ及び配管内の水を完全に抜いてください。
また、油タンクの送油バルブを閉めてください。

5 安全装置

安全装置が作動した場合、原因を取り除いたあと、運転スイッチを入れなおしてください。

1．対震自動消火装置（感震器）

運転中に機器が強い振動や衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために運転を停止させる安全装置です。

2．燃焼制御装置（炎検出器：CdS）

燃料切れなどの点火不良や、燃焼中に消火したとき、炎検出器が異常を感知して運転を停止します。

3．停電安全装置

停電になると自動的に消火します。再通電した後、運転スイッチを入れなおしてください。

4．過熱防止装置（回路）

温度制御装置（回路）の故障により熱交換器内部の湯の温度が異常に上昇した場合、運転を停止します。

6 その他の装置

1．過熱防止装置（ハイカット）

温度検出器の故障で異常過熱したとき燃焼を停止します。機器がじゅうぶん冷えてから異常がないか確認し、運転スイッチを入れなおしてください。

7 日常の点検、手入れ

1 点検、手入れのときの注意

1．点検、手入れを行なう前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

2．点検、手入れの際、次のことは絶対に行なわないでください。

（1）対震自動消火装置（感震器）の取りはずし及び分解

（2）温度センサーの取りはずし

（3）電磁ポンプの圧力調節

2 点検、手入れの必要項目、時期、手法

1．周囲の可燃物（日常、常に点検）

燃えやすいものが落ちたり、ふれたりするおそれがないことを確認してください。火災の危険がありますので、周りに可燃物を置かないでください。

2．ほこり（日常、常に点検）

機器の内部にたまったほこりや汚れにより、思わぬ事故になる場合があります。掃除をしてください。

3．油漏れ、油のたまり、油のにじみ（日常、常に点検）

日常、油漏れや油のたまり、油のにじみがあるかどうかを調べるよう習慣づけ、給油のときこぼれた灯油はよくふき取ってください。万一油漏れによって油のたまり、油のにじみが生じているときは、運転を停止してお買い上げの販売店にご連絡ください。

4．送油管の点検（日常、常に点検）

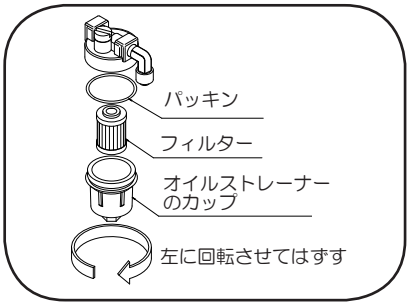
送油管から油漏れがない点検し、油漏れなどがあれば交換してください。

5．油タンク内の水（給油時に点検）

油タンクに水やゴミがたまっているようであれば取り除いてください。

6．オイルストレーナー（3 ヶ月に 1 回）

オイルストレーナーに水、ゴミなどがたまると電磁ポンプから振動音が出たり、点火不良や燃焼不良をおこすことがあります。3 ヶ月に 1 回位、オイルストレーナーの掃除をしてください。



7．排気口（1 年に 1 回）

排気口がつまると燃焼が悪くなります。年に 1 回以上は、すすなどのつまりがないか点検してください。排気口の周辺の樹木など、可燃物には気をつけてください。

8．水漏れ（日常、常に点検）

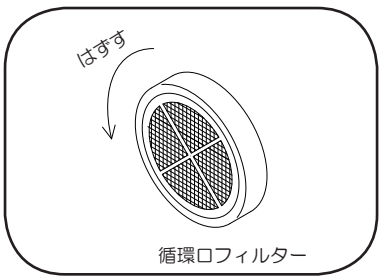
熱交換器・配管などから水漏れがないことを確認してください。水漏れがあればお買い上げの販売店にご連絡ください。

9．水ストレーナーの掃除（1 ヶ月に 1 回以上）

減圧弁の水ストレーナーにゴミがつまると給湯栓からお湯の出る量が少なくなります。給水元栓を閉めた後、水ストレーナーをはずして掃除してください。

10．浴槽の循環口フィルター（日常、常に点検）

循環口フィルターを左に回してはずし、湯あかやゴミを取り除いてください。



8 定期点検

■定期点検に関する注意

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。1 年に 1 回程度、お買い上げ店、または修理資格者（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL03-3499-2928）で行なう技術管理講習会修了者［石油機器技術管理士］のいる販売店などに点検依頼されることをおすすめします。

9 故障・異常の見分け方と処置方法

故障や異常を感じたときは使用をやめて、修理を依頼される前に次表により原因を調べて処置をしてください。原因のわからないときは、そのままにしてお買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。

故障の状況	原　　因	処　置　方　法
電源が入っていない	停電している。	再通電するのを待つ。
	電源プラグが抜けている。	電源プラグを差してください。
	制御基板のヒューズが溶断している。	お買い上げの販売店に連絡してください。
運転スイッチを入れても作動しない	制御基板の故障。	
いったん正常に運転するが、約 30 秒後に停止する	油切れまたは送油バルブが閉じている。	給油してください。
	送油経路の空気抜きがふじゅうぶん。	空気抜きをしてください。
	ストレーナーのゴミづまり。	ゴミを取り除いてください。
	油タンクに水がたまっている。	タンクの水を抜いてください。
給湯温度が低い	温度調節が低い。	温度調節を高くしてください。
	お湯の出しすぎ。	給湯量を少なくしてください。
途中で水になる	油切れ。	給油してください。
ふろが沸かない、または沸きが遅い	循環口フィルターのつまり。	掃除をしてください。
	すでにふろが沸きあがっている。	入浴設定温度を上げてください。
	ふろ配管経路からの放熱。	お買い上げの販売店に連絡してください。
排気口からすすが出る		
燃焼ガスのにおいがする		
油漏れしている		
水漏れしている		
燃焼音が異常		
エラー表示が出る		モニター表示による処置を参照。

■モニター表示による処置方法

リモコンのエラー表示の内容により、故障原因を判断することができます。エラー表示が出た場合、メインリモコンの「修理依頼」または「自己点検」のランプが点灯します。

・「修理依頼」のランプが点灯した場合は、お買い上げの販売店または弊社まで連絡してください。連絡していただく場合は、エラー表示の内容もお知らせください。

・「自己点検」のランプが点灯した場合は、20 ～ 21 ページの表により原因を調べて処置をしてください。それでもなおらないときは、お買い上げの販売店または弊社まで連絡してください。

モニター表示	ランプ点灯		故障内容	処置方法
	修理依頼	自己点検		
E－01	○		疑似火炎	お買い上げの販売店に連絡してください。
E－02	○		着火不良、不着火	
E－03		○	途中失火、油切れ	油タンクが空になっています。給油（6 ～ 7 ページ参照）して、運転スイッチを入れなおしてください。
E－04	○		給湯サーミスタの短絡	お買い上げの販売店に連絡してください。
E－05	○		給湯サーミスタの断線	
E－06	○	○	対震自動消火装置（感震器）の作動	機器に異常がなければ運転スイッチを入れなおしてください。
E－08	○		ハイカット作動	お買い上げの販売店に連絡してください。
E－09	○		過熱防止装置作動	
E－10	○		リモコン通信異常	
F－13	○		ふろサーミスタの短絡	
F－14	○		風呂サーミスタの断線	
U－00		○	減油感知器の作動※	給油（6 ～ 7 ページ参照）して、運転スイッチを入れなおしてください。

※別売の減油感知器を取り付けた場合のみ

注）U－00警報が表示中に、他のエラーが発生した場合、エラー表示のアルファベットはUの表示になります。

■次のような場合は故障ではありません

給湯栓を開いてもすぐお湯が出ない	機器から給湯栓まで距離がありますので、お湯が出てくるまで少し時間がかかります。
湯が白く濁って見える	水中に溶けていた空気が細かい泡となって白く見えるためで問題はありません。
出湯量を多くすると給湯温度が低くなる	給湯能力以上のお湯が出ていますので、給湯栓を絞ってください。

10 部品交換のしかた

短期間に消耗する部品は、特にありませんが、ノズル・オイルストレーナーなど交換品が必要なときは、お買い求めになった販売店でお求めください。

■修理は（財）日本石油燃焼機器保守協会で行なう技術管理講習会修了者［石油機器技術管理士］の修理をお受けください。

11 仕　様

本体の品番		CBK-381GF	CBK-381GFX
型式の呼び		CBK-381	
種類	燃焼方式	圧力噴霧式	
	給排気方式	屋外用開放形	
	給水方式	水道直結式（減圧弁、逃し弁内蔵）	
	加熱方式	1缶2水路式	
	加熱形態	貯湯式急速加熱形	
	循環方式	強制循環式	
点火方式		高圧放電式	
使用燃料		灯油（ＪＩＳ　１号灯油）	
燃料消費量		5.0Ｌ/h	
湯沸効率		76%	
連続給湯効率		86%	
連続給湯出力		44.2kW（38,000kcal/h）	
熱交換器容量	給湯側	13.4Ｌ	
	ふろ側	1.1Ｌ	
最高使用圧力		0.1MPa	
伝熱面積		0．9㎡	
外形寸法		高さ925mm×幅563mm×奥行294.5mm	
質量		42.0kg	
電源電圧及び周波数		ＡＣ100Ｖ　50/60Hz	
定格消費電力	給湯使用	点火時143/133W　燃焼時128/118W	
	給湯・ふろ同時使用	223/233W	
排気温度		260℃以下	
騒音レベル		54ｄＢ（Ａ）	
ノズル	噴霧量	1.2Ｇ	
	スプレーパターン	ＫＨ	
	噴霧量	60°	
循環管取付口径		R1/2	
基準浴槽		有効水量　200～300Ｌ	
電流ヒューズ		10Ａ	
安全装置		対震自動消火装置（感震器）、過熱防止装置、燃焼制御装置（炎検出器：ＣｄＳ）、停電安全装置	
その他の装置		ハイカット	
附属品		銅パイプ(1)、アース線(1)、メインリモコン(1)、メインリモコンコード(1)、ふろリモコン(1)、ふろリモコンコード(1)、ステーパイプ(1)、ステーパイプカバーセット(1)、排水ホッパー(1)、取扱説明書(1)、工事説明書(1)、保証書(1)、呼び水アダプター(1)	

12 アフターサービス

1．修理について

ご使用中に異常が生じ、20 ～ 21 ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に従って処置をしても、なおらない場合には、お買い求めの販売店、または弊社までご連絡ください。なお、ご連絡されるときは、機器の型式名及びお買い上げ時期をお忘れなくお知らせください。

（1）ご転居の場合には事前にお買い上げの販売店にご相談ください。

（2）ご贈答品などで保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合には、弊社までご相談ください。

（3）保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有料修理いたします。

2．保証書について

保証書は、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。

保証書に設置日、販売店名など所定事項の記入がないと有効とはなりません。もし記入がないときは、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。

万一故障した場合には、保証書記載内容により、保証期間内は無料修理いたします。

この機器の保証期間は設置から 2 年です。その他の詳細は保証書をご覧ください。

この取扱説明書やラベル類による指示、禁止、注意事項に反したご使用状態で万一事故が発生した場合、弊社は責任を負いかねます。

3．補修用性能部品の最低保有期間について

補修用性能部品の最低保有期間は経済産業省の指導により、当製品の製造打ち切り後 7 年間（BL 製品は 10 年間）となっています。

なお、補修用性能部品とはその製品の性能を維持するために必要な部品です。

13 据　付　け

1　据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり販売店または据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、工事説明書をお読みください。

2　騒音防止について

設置場所の選び方次第で騒音は大きく変わります。騒音公害とならないようじゅうぶん配慮して設置場所を選択してください。

3　据付け工事後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据付けられているかどうかを確認してください。

4　試運転

試運転は販売店または据付業者とご一緒に必ず行なってください。

1．運転準備

(1) 給油及び送油経路の空気抜きと油漏れの確認

・油タンクへの給油は油量計を見ながら行なってください。
・送油経路内の空気抜きを行なってください。（詳しくは 7 ページをお読みください）
・送油経路に油漏れのないことを確認してください。

(2) 給水及び水漏れの確認

・給湯栓を開き、水の出ることを確認してください。
・配管経路からの水漏れのないことを確認してください。

(3) 電源プラグ差し込みの確認

・電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていることを確認してください。

2．運　転

(1) 運転開始手順

・油タンクの送油バルブのつまみを全開にします。

・運転スイッチを押して運転を開始します。（詳しくは 10 ページをお読みください）

(2) 初期運転時の異常現象

電磁ポンプ内に空気を吸い込むと運転時に異常音を発し、正常に燃料を噴霧しません。このとき、空気抜きをしないと、数回の点火操作を必要とする場合があります。（詳しくは 7 ページをお読みください）

(3) 正常運転のめやす

上記の初期運転時の異常現象もなく、排気口または排気筒から黒煙など出ていないことを確認してください。機器の設置条件などにより、燃焼空気が不適正の場合は、異常発煙や振動燃焼を生ずることがありますので、上記の現象が生じないことを確認してください。

3．消火の手順

運転スイッチを押して運転を停止します。